

オープンフォーラム 1

【テーマ】 「国立ヘルスサイエンス情報センターにむけて」

【要 旨】

我が国においても米国の NLM のような国立医学図書館が必要という考えのもとに、本協会では長く、調査研究、協会内での議論、他の図書館団体との協議、および学術団体や省庁への働きかけをおこなってきた。その間、国立の施設名称も「医学文献情報センター」、「国立医学図書館」から、「国立ライフサイエンス情報センター」へ、そして「国立ヘルスサイエンス情報センター」へと変遷してきた。3 年前からこの議論を再活性化し、2005 年に委員会から出された最終報告の実現に向けた高い理念を保持しつつも、当面の目標として「国民一般を対象とした医療健康情報の提供」に絞っていくことが確認された。さらに現委員会では、他の図書館団体（近畿病院図書室協議会、日本看護図書館協会、日本農学図書館協議会、日本病院ライブラリー協会、日本薬学図書館協議会）との連絡協議会も再開させるとともに、政府や国民に「国による医療健康情報提供」の必要性をアピールし得るような「モデル事業」について検討を始めている。モデル事業とすれば以下のような事業が考えられる。

本フォーラムでは協会の取り組みを始め、国に求めるべき内容やモデル事業について、皆様方からご意見や新たな提案を直接頂き、ディスカッションできればと考えている。

- 1) HP ポータルサイト『からだところの情報センター』（6 団体共同企画）の充実：
 - ①医学系以外の図書館員向けの医療健康情報に関するページを医療・健康情報委員会と協力して開設する。コンテンツとして、レファレンス協力や選書支援を検討中。
 - ②独自の企画、見やすさ・わかりやすさを追求するために、新しい名称・デザイン・コンテンツを 6 団体の会員から公募する。
(コンテンツとしては、「文献入手法の解説」や「医療従事者の職業紹介」など、また「症状から入る」ような検索法など)
- 2) 研修事業モデル： 国立の施設に求められる「研修機能」の一環として、「ヘルスサイエンス情報専門員制度」、「診療ガイドライン作成支援」など、すでに他の委員会が取り組んでいる事業をセンター構想の一環として位置づける。
- 3) 情報提供モデル： 国民にとって身近な図書館である公共図書館と豊富な医学専門資料を有する医学図書館が連携し、簡便に資料（文献）入手をおこなえるよう、対象地区や対象資料を選定し、医療健康情報提供モデルを構築する。
- 4) 調査成果の活用と情報発信： 例えば、健康食品に関するレファレンス調査を業界団体と共同でおこない、「アグリビジネス」などのイベントに展示ブースを出す。このような取り組み成果を公開するとともに、関連団体や国民にその必要性を訴える。

【司会・話題提供】 関西医科大学 正会員個人

山田 久夫